

2014年3月20日 第40回創価大学・ 第28回創価女子短期大学卒業式 祝辞

—生命を学び、平和を教える人たれ—

オスカル・アリアス・サンチェス

卒業生の皆さん、教職員、御父兄の皆さま、

友情は、人生において最も美しく、最も神秘的な秘訣のひとつであります。ひとりひとりの違いを明確にし、壊れることのない絆で結びつけるものであります。年齢、性別、人種、国籍、階級の隔たりを超えて我々をひとつにしてくれるものです。そして友情は、東京の海苔養殖の地で育った一人の青年と、コスタリカのコーヒー農園で育ったもうひとりの青年を結びつけてくれました。私は、池田大作氏を我が友人と呼びし、長年にわたる数回の会談を通して氏から支えと勇気と協力の恩恵を受けることができたことを名誉に思います。

人類の成果、芸術、哲学、智慧の宇宙において、日本という国はその天空に最も輝きを放つ銀河のひとつであり、池田大作氏はその銀河系の中で最も輝きを放つ一角のひとつであります。そして彼のライフワークであるこの驚くべき星座の中で、創価大学は間違いなく最も輝きを放つ星のひとつであります。この類まれなる場所、世界の平和と進歩の光ともいうべき場所に再びご招待を頂いたことを名誉に思います。

貴大学の創立者と私との友情は、一見、共通した国籍や言語、職務に基づいていないとは思いうことでしょう。しかし、この友情は、ある意味ではそれらすべてに基づいたものであります。創立者と私の友情は、世界をより平和な場所にするという共通の職務に基づいています。平和という共通の言語に基づいています。そして、国境は人間が世界地図の上に引いた線に過ぎないと認識し、何よりも人間であることを共通のアイデンティティとして位置づけ、自らを世界市民と呼ぶ私たちすべてが共有する（地球籍とも言うべき）国籍に基づいています。

これは、本日ここに学位を授与された皆さんも共有する職務であり、言葉であり、国籍であります。貴大学の使命は、私がより多くの教育者に自らの使命と受け止めて欲しいと願う使命であ

Óscar Arias Sánchez（元コスタリカ共和国大統領）

ります。それは、私が長年、世界中の学校、大学において表明してきた信念、すなわち、もし我々がより平和な世界を創ろうとするならば、その過程は我々の教室や大講堂から始まらねばならないという信念と響きあう目標であります。

スペインの作家ミゲル・デ・ウナムノの小説「愛と教育」には、天才を育てることに取つかれた父親の物語が描かれています。この悲劇的な作品は、そのメッセージを赤裸々に伝えていきます。それは、教育が価値を伴わない事実、感情を伴わない知識の単なる概要であるならば何が起きるか、賢者ではない学者、人間ではない専門家を育てた時、何が起きるかを、我々に示してくれています。

池田博士は、「一人の人間における偉大な人間革命は、やがて一国の宿命の転換をも成し遂げ、さらに全人類の宿命の転換をも可能にする」と述べられました。教育は、まさにこの様な人間革命を創出しなければなりません。でなければその努力の価値がないからであります。教育は人類の運命における最大のチェンジ・エージェント（変革をもたらす媒体）でなければなりません。でなければその使命を果たせないからであります。教育はそれ自体が目的ではなく、ひとつの道です。数千年間、（人類が）成熟に至ろうと格闘してきたある種の永遠の発展期から抜け出す道であります。「教育する」「教育を受けた」と言うだけでは十分ではありません。「何のために」と、我々は問わねばなりません。自分たちの学術と芸術を通してどのような社会を築いているのかと我々は問わねばなりません。

今日の主な大学を見た時、明らかに、より繁栄した社会を創るために教育が行われているように思えます。20世紀は、間違いなく、歴史上最も富を増幅させた世紀でした。過去数十年間で、何億もの人々が貧困から脱却し、記憶している限り初めて、世界人口の半分以上が中流階級に属すようになりました。指数的な速度で成長するこの星は、驚くべき巧みさで、その成長が示唆する資源の不足に対応してきました。テクノロジーは世界のあらゆる場所をつなぎました。物質的には、これほど裕福になったことはないでしょう。しかし、この物質的発展は、人間の開発には必須である一方で、我々が必要な唯一のものではないことは明らかであります。

多くの富と機会を生んだ20世紀は同時にまた、かつてない蛮性を生み出した世紀でもありました。かつてない程の規模で人類は殺戮を行い、かつてない程に憎悪は我々の言葉を毒し、かつてない程に死は、とがめられることなくすべての人種を席卷しました。そしてかつてない程の多くの涙が、人によって作られた悲劇によって流され、かつてない程の多くの知性と思想が、拷問と暴力の名の下に封殺されました。

これらすべてにおいて、教育の役割は何だったのでしょうか？ 大学は人間の精神の衰退にどのように貢献したのでしょうか？ 読み書きのできない人々が歴史上最悪の大量虐殺に責任があ

ったのでしょうか？ 教科書や賢者の思想に触れることを知らない、あるいはできないことが、何百万という同朋が殺しあった多くの内戦の責めを負うべきでしょうか？ 我々には教師があまりにも少なかったのでしょうか？ あるいは、我々にはあまりにも多くの兵士がいたということなのでしょうか？

答えは、教育が十分ではなかったのです。世界は、青年たちへの教育課程に必須の講座を加えることを忘れたのであります。世界は、我々の思想に心をもたらし、我々の学問に魂をもたらし講座を加えることを忘れたのです。その講座とは、(前述の小説「愛と教育」ではなく)「平和と教育」の講座として私が考えたいところのものであります。そしてそれは、ここ創価大学の教育課程の中に見出されるものなのであります。

ここで申し上げる「平和と教育」とは、平和のための、そして平和による教育、という意味であります。ひとつの命の価値を理解しない学者を育てても意味がありません。戦争を正当化する教授を育てても意味がありません。最も残酷で愚かな人権の侵害行為である武力紛争において、毎日何十人もの人々が亡くなっているにも気にもとめない学生を卒業させても意味がありません。いかなる国のいかなる学科の学生も、イラク、アフガニスタン、コロンビア、スーダン、ソマリア、ミャンマーの犠牲者たちの叫びを知らずにいるべきではありません。いかなる国のいかなる学科の学生も、今日の戦争の死傷者の殆どは、戦うことを選択した兵士ではなく、何の罪もない民間人であるという事実を知らずにいるべきではありません。いかなる国のいかなる学科の学生も、我々が眠っている間にも、攻撃に使われる狂気と軽率の瞬間を待って我々を見つめている17,000個の核弾頭があることを知らずにいるべきではありません。いかなる国のいかなる学科の学生も、2012年単年度だけで武器と戦争に世界で1兆7,500億ドルが使われており、一方でその費用のほんのわずかのお金で、予防し得る病気、飢餓、非識字を地球上からなくすることができることを知らずにいるべきではありません。そしていかなる国のいかなる学科の学生も、昨年国連で採択されたATT-武器貿易条約の批准を我々が待っている間に、6億4,000万個の小型武器と軽火器が毎日、管理されない形で国境を越えて取引されていることを知らずにいるべきではありません。

これが愚かなことであり、人類のとるべきコースを変えるのは全く私たち人類の権限内で可能であることを理解するのに、ある特定のイデオロギーに同意する必要はないでしょう。大学がこれを教えられなかったら、小学校、中学・高校がこの人権に関する基本的な懸念を伝えることをしなかったら、教育は平和の道具でも人類の痛みを癒す方法でもなくなるのであります。

平和による平和のための教育とは、これらすべてを認識することを意味します。そしてまた、街角で見たいと願うような世界を教室の中で築くことを意味します。往々にして学校は、競争的

な、時には暴力的でさえある環境の生まれ故郷となり得ます。学生たちは武器による戦争の発端である言葉の戦争を行うことを許され、排外主義に近い愛国心的価値を教えられ、国境と国籍によって分断された、軍事行動の勝利が成功の度合いを測る世界で育てられます。我が地域ラテン・アメリカでは、これらがどこの地域よりも明確に現れています。学生たちは世界平和のために闘った人々の成果よりも、兵隊の偉業を語ることがより上手にできるようになるのです。我々がもし平和を課外授業科目としたならば、それは課外授業的な態度につながります。学者や博士の使命ではなく、自由奔放な夢想家の奇妙な気まぐれとなるのであります。

平和と教育が本当に教育課程の一部となっているこの類まれな大学を卒業した時、これこそ皆さん一人一人が直面される挑戦課題であります。皆さんは周りから非現実的だ、純粋すぎる、現実を知らないとみなされることでしょう。私は先ほど、創価大学は人類の天空に輝く星であると申し上げました。つまりそれは、ここを巣立った時、皆さんは少なくとも時には、光から闇へと向かうこともあると言うことです。学生仲間との輝く親交から、今でも戦争を評価する世界での平和推進者の孤独へと進まれるであります。この地球に住む全人口を100人とする、大学教育を受けた人はその内わずか7名という計算になります。そしてその7名の内、皆さんのような学位をお持ちの方は1名にも満たないでしょう。つまり、事実や数字の把握、データや専門知識の修得だけでなく、非暴力と交渉への、そして人類史にあまりにも長く影を落としてきた誤った優先順位と捻じれたパラダイムを変えていくことへの深い決意／コミットメントを持っていることを示す学位をお持ちの方は、100名中1名にも満たないのであります。

しかし恐れる理由はありません。これはここで学ぶことで皆さんが備えてこられた探究の旅だからであります。決してひるまず、挫けず、断じて成し遂げてください。今この時に感じている決意を、これからの人生の中で日々思い起こし、必要な強さをそこからまた引き出して、前に進んでいかれることを私は熱望します。

—我が友人たちよ—

本日私は友情の精神の下にここにやって参りました。両国間の友情の精神、創立者と私が共有する友情の精神、そして平和を求めるすべての人々を結びつける友情の精神においてであります。この友情こそ、これから先、行く手にある様々な挑戦の中で皆さんを支え続けていくでしょう。「その使命に対する抑え難い信念によって火がつけられた、決然とした人々からなる小さな団体は、歴史の流れを変えることができる。強き者の非暴力はいかなる時も、完全に武装した最も勇敢な兵士や多数のそれよりも強い。」との、マハトマ・ガンジーの言葉を忘れないでください。

今、私が目の前に見る決意あふれる精神は、神聖な学びの殿堂の学生達でありました。これか

ら皆さんはその先の世界に向かっていかれるからには、それ以上でなければなりません。皆さんは、教授であらねばなりません。ここで学んだ平和と教育の授業をより多くの人々にもたらし覚悟を決めねばなりません。この扉を抜けた時、ここで学んだことを世界と分かち合いながら、この地球を癒す方法について学び続ける、生命の学生、平和の教師となってゆかんことを願います。

ありがとうございました。